

令和4年度 都農町立都農南小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

評定 「4：期待以上」「3：期待通り」「2：やや期待を下回る」「1：改善を要する」 ※（ ）は令和3年度

評価項目	評価指標	評価する内容	学校の自己評価結果コメント ○結果の考察・分析 ■改善策等	自己評定	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
学力向上	①「わかる・できる」授業に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上を目指した授業改善の実践。</li> <li>・作文指導における作品の投稿</li> <li>・新聞を活用した授業実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種学力テストの内容を分析することで、今求められている学力に関して共通理解を図ることができた。また、求められる学力の向上を目指した授業の在り方を考えながら授業改善を行った。</li> <li>■ 学力の二極化が見られるため、組織的に対応するなどの対策が必要である。</li> <li>○ 主題研究において書く力を高める研修を推進してきた。意図的に書く場面を設定した授業展開や日常指導により書く力の向上を図ることができた。その成果は、全国学力テストの結果等にも表れている。</li> <li>○ 児童の作文等を新聞に投稿することで、新聞に13点掲載されたりラジオで2点紹介されたりするなどの実績を上げることができた。</li> <li>■ 取り組み方に差があるため、どの学年・学級においても実態に応じて取り組むように啓発を行う必要がある。</li> </ul>	保護者 2.5 (2.5)  児童 3.3 (3.5)	3.5 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全職員で取り組まれた授業改善によって、各種学力テストの伸びが見られたことは素晴らしい。更に子どもの意欲を高める取組をお願いしたい。</li> <li>○ 新聞に投稿される作文を読んで、南小の子どもの成長がうかがわれる。今後も大いに期待したい。</li> <li>○ 書く力を高めるための新聞投稿はよい取組である。子どもの自信に繋がる。</li> <li>○ 新聞掲載数も重要であるが、何点投稿したのかということにも目を向ける必要がある。</li> <li>○ 読書への関心を高める工夫がなされている様子がうかがえる。今後は、親子で読書する習慣ができる取組があるとよい。</li> <li>○ 各学年に応じた家庭学習の仕方を配付し、参観日にノートを展示するという取組がよい。</li> <li>○ 家庭でのタブレットを活用した学習は、難しい面もあると思うが積極的に取り組んで欲しい。</li> </ul>
	②図書館を利用した読書活動に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書指導</li> <li>・読書量</li> <li>・図書室管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書クイズや読書ビンゴ・読書リレーなどの取組を行うことで、読書への関心・意欲を高めることができた。また、図書委員会児童による読み聞かせも実施した。</li> <li>○ 都農町立図書館との連携を図りながら、読書に親しむ機会を作ることができた。</li> <li>○ 都農町の図書支援員の協力により、図書館の環境整備を進めることができた。</li> <li>■ 読書への関心に個人差があるため、個人の読書量を把握し、個別に声かけを行うなどしながら、読書に親しむ環境を整えていく必要がある。</li> </ul>	職員 2.3 (2.9)		
	③児童は、家庭学習に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張りカードの結果(学期1回)</li> <li>・家庭学習(宿題・自学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 低・中・高学年用に作成した家庭学習の仕方を配付し、家庭学習への取組の啓発を行った。</li> <li>○ 参観日に合わせて家庭学習で取り組んだノートを展示することにより、児童や保護者に家庭学習への取組の様子を伝えた。</li> <li>■ 家庭学習への取組に差があり、宿題の量を調整したり、個別に指導を行ってきたりした。今後も指導の継続が必要である。</li> </ul>			
	④授業でのタブレットの活用に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の授業での活用</li> <li>・校内研修</li> <li>・保護者への啓発</li> <li>・町が配付している家庭用端末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タブレットをワークシートとして活用したり、話合いのツールとして活用したり等学習の中に積極的に取り入れている。</li> <li>○ タブレットを活用しながらドリル学習を行うなど、個別最適な環境で学習に取り組ませることができた。</li> <li>○ 新入学予定児童保護者説明会で町が配付しているタブレット端末の活用方法について説明を行い、活用について啓発を行うことができた。</li> <li>■ 家庭用タブレットの活用が十分に行われているとは言い難い。</li> </ul>			
豊かな心の育成	①生徒指導・特別支援教育について、組織的な対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動</li> <li>・特別支援教育</li> <li>・SC・SSW等の活用・連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運営委員会を中心に、朝のあいさつ運動に取り組んでいる。あいさつがよくできる児童名を貼り出したり、給食時間の放送で紹介したりしながら意欲付けを行うことができた。</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーターを中心に、合理的配慮を要する児童への支援を行っている。また、特別支援学級3クラスが連携しながら特別支援教育を推進している。</li> <li>○ SC・SSWの積極的な活用を図りながら、心理的なサポートや福祉的な支援を行っている。児童だけではなく、保護者との相談や支援を行っている。</li> <li>■ あいさつに関しては、全ての児童があらゆる場所で元気よく行うところまでは達していない。継続的な指導が必要である。</li> </ul>	保護者 3.3 (3.1)  児童 3.4 (3.5)	3.5 (3.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南小校門前から国道10号線歩道橋まで、毎朝児童が大きな声であいさつをしている。とても素晴らしいことだと思う。</li> <li>○ 南小のあいさつは、帽子を取ってあいさつをするという伝統があり、現在もそれができている。今後、ますますあいさつができるようになってほしい。</li> <li>○ あいさつが昔の南小の姿に少しずつ戻ってきている。今後に期待したい。</li> <li>○ あいさつは、学校と家庭・地域で力を合わせないと効果が出ないと思う。今後の課題である。</li> <li>○ 心のアンケートを月1回実施し、それをもとに教育相談をされているので安心した。</li> </ul>
	②人権教育の常時指導に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全般(全教科指導)</li> <li>・校内研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参観日に、人権に関する内容の授業(学級活動・道徳)を実施した。</li> <li>■ 人権教育に関する研修の充実を図り、職員の人権感覚を磨いていく必要がある。</li> </ul>	職員 2.5 (3.2)		
	③いじめの未然防止と早期発見に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の実態(心のアンケート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心のアンケートを月1回実施し、それをもとに教育相談を実施している。今年度は、更に全員を対象とした教育相談を実施する時間の設定を行った。</li> <li>○ 毎月、サポート委員会(いじめ・不登校対策委員会)を実施し、児童の様子を共通理解し、対応について協議した。</li> <li>○ 様々な事案に対して、組織的に対応を行うことができた。</li> <li>■ 報告・連絡・相談の徹底を図りながら、常に全職員で情報共有を行っていく必要がある。</li> </ul>			
体力向・健康	①規則正しい生活リズムを確立するための確かな指導を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すこやか週間</li> <li>・親子歯磨き週間</li> <li>・学校保健委員会(教育講演会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すこやか週間や歯磨き週間を設定することにより、児童自身や保護者に対して、規則正しい生活リズム等、健康教育への啓発を行うことができた。</li> <li>○ 学校保健委員会において、外部講師を招き、ロコモに関する講演を行うことができた。</li> <li>■ コロナ禍で運動不足の子どもたちが増えている。意識的に運動に取り組むよう啓発していく必要がある。</li> </ul>	保護者 3.3 (2.5)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍の中で、規律正しい生活リズムを確立するのは大変であると思う。</li> <li>○ コロナ禍の中、健康管理に積極的に取り組んでいることは素晴らしいことである。</li> <li>○ 最近では、風水害や地震が多いので、命を大切に安全教育に力を入れており、安心した。</li> </ul>

増進	②感染症や病気の予防を理解するための確かな指導を推進している。	・マスク着用や検温カードの取組 ・感染症に関わる日常指導	○ 検温カードを活用し、日常の健康管理に努めるよう啓発を行った。また、学校生活において、マスクの着用や手指の消毒等に関して指導の充実を図った。 ○ 熱中症対策も含め、マスクを着用する場面とそうでない場面について、具体的な場面を示しながら考えさせる機会を作った。(集会において、5・6年児童が劇風に演じた) ■ 今後、世の中の状況に応じて対応を考えていく必要がある。	児童 3. 3 (3. 4)  職員 2. 5 (3. 0)	3. 9 (3. 2)	
	③命を大切にするための安全教育についての確かな指導を推進している	・避難訓練 ・登下校の様子 ・地域での過ごし方	○ 警察署や消防署など、外部機関を活用した避難訓練を実施することができた。 ○ 本校職員に対して、警察署や消防署などから講師を派遣し研修を行い、判断力や実践力の向上を図った。 ○ 登下校の様子や地域での過ごし方に関する情報を把握し、改善が必要な場合は、放送や集会等で適宜指導を行った。 ■ 常在危機の意識を高め、組織的に対応できる体制の強化に努めなければならない。			
地域連携	①地域資源を可能な範囲で活用し、キャリア教育を推進しながら地域との連携を図っている。	・地域学校協働本部との連携 ・校外学習(地域学習)	○ 地域で守りたい宝について二つの視点を提示し、学校運営協議会で熟議しながら、実践に努めた。 ○ 各学年の実態に応じて、地域素材(人、もの、こと)を活用しながら、地域学習の充実を図ることができた。 ■ 学校運営協議会において協議してきた内容の更なる充実と、継続を図っていく必要がある。	保護者 3. 2 (2. 9)  職員 2. 5 (3. 0)	3. 9 (3. 2)	○ 南小校区内の「守りたい宝」について、積極的に取り組んでいた感謝している。 ○ 運動会で、地域で衰退していた踊りが復活し、当時の思いがよみがえった。来年度へつなげて欲しい。 ○ 安心メールの活用は、親子が安心して学習できる環境でよいと思う。 ○ 学校便りが「つの週報」と一緒に回覧され、南小の様子が町民に周知されよいことだと思う。 ○ ホームページを他の地域の方にも紹介し、他地域にも発信している。
	②各種便りや学校のホームページを活用して家庭や地域に情報を発信している。	・安心メールや学校ホームページの活用 ・学校からの情報発信(学校及び学年・学級便り)	○ 安心メールを活用し、必要な情報を適宜発信した。また、学校運営協議会委員にも安心メール登録を依頼し、学校の情報を共有することができた。 ○ 学校行事や学習の様子をホームページで積極的に発信することができた。 ○ 学校便りを月1回発行することで、保護者や地域、関係機関に学校の様子を発信することができた。 ■ 全職員が、情報発信を行うことができる体制を整える必要がある。			
学校運営への参画(職員)	①組織の一員として、同僚の職員と連携・協働しながら学校運営に積極的に参加している。	・校務分掌 ・学校行事 ・PTA活動	○ 職員朝会や職員会議等で協議しながら、全職員で学校経営ビジョンの具現化に努めた。また、モニター掲示板の活用を図ることで、情報共有の機会を広げることができた。 ○ 職員が、各部PTA所属の活動に参加した。 ■ 職員数と業務内容の均等を図るために、校務分掌の内容及び組織の在り方について検討する必要がある。			○ 全校児童の学力向上には、全職員とPTAとの連携が一番重要であり、本校はよく連携している。 ○ 先生方の勤務の状況が、昔と異なり大変な様子が見えてくる。
	②勤務時間を意識した効率的な業務の遂行と自己のキャリアプランをもとにした自分の教職人生や働き方を見通している。	・キャリアプラン ・自己啓発を含めた研修と修養	○ 退庁時刻の目安を示すことで、勤務時間の短縮を図ることができた。 ○ 年度当初に、研修受講の積極的参加を呼びかけることで、全職員が各種研修に参加することができた。 ■ 職員のキャリアプランについての研修を行い、働き方について更に考えを深化させる必要がある。	職員 2. 5 (3. 1)		
	③人権感覚を意識した態度や行動を心がけている。	・教育活動における言動	○ 職員に対して、コンプライアンスに関する情報を適宜発信することで、人権感覚を意識した態度や行動ができるよう啓発を行った。また、チェックシートでの振り返りも行った。 ■ 人権に関する研修の充実を図り、教育活動に関する言動について振り返る機会を設ける必要がある。		3. 9 (3. 0)	
学校運営への参画(PTA)	①PTAの一員として、できる限り学校運営に参画している。	・運動会への協力 ・参観日(懇談会) ・家庭教育学級	○ 運動会では、前日準備や後片付け等、役員を中心にたくさんの方々が協力してくださった。 ○ 家庭教育学級では、町内の企業2社の見学を行うことができた。 ■ 懇談率が低い。(11月の平均参観率: 85.7%、平均懇談率: 34.3%)保護者への啓発、職員への懇談会の在り方についての研修等を行い、懇談率アップにつなげなければならない。	保護者 3. 0 (2. 9)		○ 南小のPTA活動は、今日まで伝統ある活動をしている。これからも子どもたちのために協力してほしい。 ○ 学級懇談の在り方を工夫できるとよい。懇談会の内容を学級通信等で事前に伝えたり、懇談会で写真等を提示したりすると懇談率が上がるのではないかと。 ○ 懇談会に出席してよかったと思えるようなニーズに合わせた内容設定も大切である。
	②都農南小が今以上に発展できるよう、できる限り協力している。	・PTA環境整備の日(年3回実施) ・PTA専門部会	○ 環境整備(奉仕作業)で、運動会へ向けて運動場整備を行っていただいた。(第1回環境整備の日参加者数: 40名、第2回環境整備の日参加者数: 65名) ○ 運動会の前日準備において、各専門部で分担して準備を進めることができた。それ以外の活動は、コロナの感染状況等によりあまりできていない。 ■ 今年度も、コロナの感染状況により専門部としての活動があまりできていない。家庭教育部、ベルマーク部は、小規模ながら活動を行うことができた。			

【次年度の取組について】

- 今年度の学力調査の結果の分析を活用し、本校の学力向上に向けての対策を講じていく必要がある。(授業改善・ICTの効果的活用・家庭学習等)
- 「あいさつ運動の更なる推進」「SC、SSW、福祉課等関係機関との連携」「外部講師等を活用した防災教育の推進」「命を守る教育の推進」を図る必要がある。
- 学校運営協議会の充実を図りながら、地域とともにある学校の更なる推進を行う必要がある。
- PTA活動の活性化を図る必要がある。